

2025年9月28日（日）

国分寺キリスト教会

子どもと一緒にファミリー礼拝



詩篇(しへん) 39篇 12-13節

せいしよをひらきましょう。

司会者とうこうごに よみましょう。

きょうのメッセージ

「私たちは旅人、寄留(きりゅう)の者」



けさ、このかしよをひらく理由

①9月14日（日）召天者合同記念礼拝

②夏休みが終わって、約1ヶ月・・・
どこかに旅行に行きましたか？

③私たちの立場（たちば）の確認

「寄留者とは???'」

寄留者（きりゅうしゃ）：

- ・故郷（ふるさと）に戻る日を待ちわびて旅をする人
- ・この地上という「仮住まい」の暮らしの中で、「天の故郷」（天国）に帰る日を、思いえがきながら、与えられた場所で、精一杯、今を生かされていく人

詩篇39篇について



①人生の「はかなさ」を
よく知っている人の祈り。

はかなさ：すぐに終わってしまうこと

確かにこの地上だけに目を留めると
人生は限りがあり、はかない。



②苦しみの中からの祈り

1-6節:

作者はこの世のはかない人生には本当の希望を見い出せないと知って、**その心は神様に向かう。**

人生の「はかなさ」と「むなしさ」を告白している。

➡しかし、それでは終わらない。

「むなしさ」については10月6日の礼拝

7節:

「何を待ち望みましょう。

私の望み それはあなたです。」

➡ダビデは、自分の望みが神様にあること、
神様ご自身であることを告白している。

ただ、彼にとって今の状況は、
あまりにも 苦しいものであり、
この後、必死に祈っている。



7節:「望み」について

詩篇25:5 あなたの真理に私を導き 教えてください。
あなたこそ 私の救いの神 私は あなたを一日中待ち望みます。

詩篇39:7 主よ 今 私は何を待ち望みましょう。
私の望み それはあなたです。

詩篇71:5 神である主よ あなたは私の望み
若い日からの拠り所。

詩篇130:5 私は主を待ち望みます。私のたましいは
待ち望みます。主のみことばを私は待ちます。

詩篇146:5 幸いなことよ ヤコブの神を助けとし
その神 主に望みを置く人。

8-11節:

- ・私を助け出してください(8)
- ・そしりの的としないでください(8)
- ・あなたのむちを取り去ってください(10)
- ・わたしは衰(おとろ)え果てました(10)

彼が置かれた状況がきびしいものであったことがわかる。そむきの罪(8)もあった。

その一方で・・・

12節前半：



- ・「主よ」とよびかけている。

「私の祈りを 聞いてください。」

「叫びに 耳を傾けてください。」

「私の涙に 黙っていないでください。」

➡大胆な祈り、切実な願い

12節後半:

「旅人」「寄留の者」

- ・「**あなたとともにいる** 旅人」

⇒ 神様とともにいるという自覚

- ・「**すべての先祖のように** 寄留の者」

⇒ 旧約聖書に出てくる人物たち

アブラハム、イサク、ヤコブなど、

ヘブル11章に出てくる人物たちも

12節:

「祈り」「叫び」「涙」

「旅人」、「寄留の者」と告白することによって、地上の旅路では
すべてを主にゆだねる信仰者の姿勢を
ここに見ることができる。

人生が旅にたとえられることがある。

13節:

- ①「私を見つめないでください」????
「私を見つめてください」ではないか?
- ②「朗（ほが）らかになれるようにしてください。」→聖書では、めずらしい表現
- ③「私が去って いなくなる前に」とは?
→どういう意味が?

13節:



①「私を見つめないでください」

⇒「そむきの罪」「不義」から目をそらしてください。

②「朗（ほが）らかに成れるようにしてください。」

③「私が去って いなくなる前に」とは？

⇒残り少ない人生の一日一日が、「はかなさ」と
「むなしさ」から「望み」の源である神様によって、
「積極的なほがらかさ」が与えられるように。

聖書にはいくつか同じ表現が出てくる

- ・「旅人」
- ・「寄留の者」「寄留者」

詩篇119:19 「私は地では**旅人**です。あなたの仰せを私に隠さないでください。」

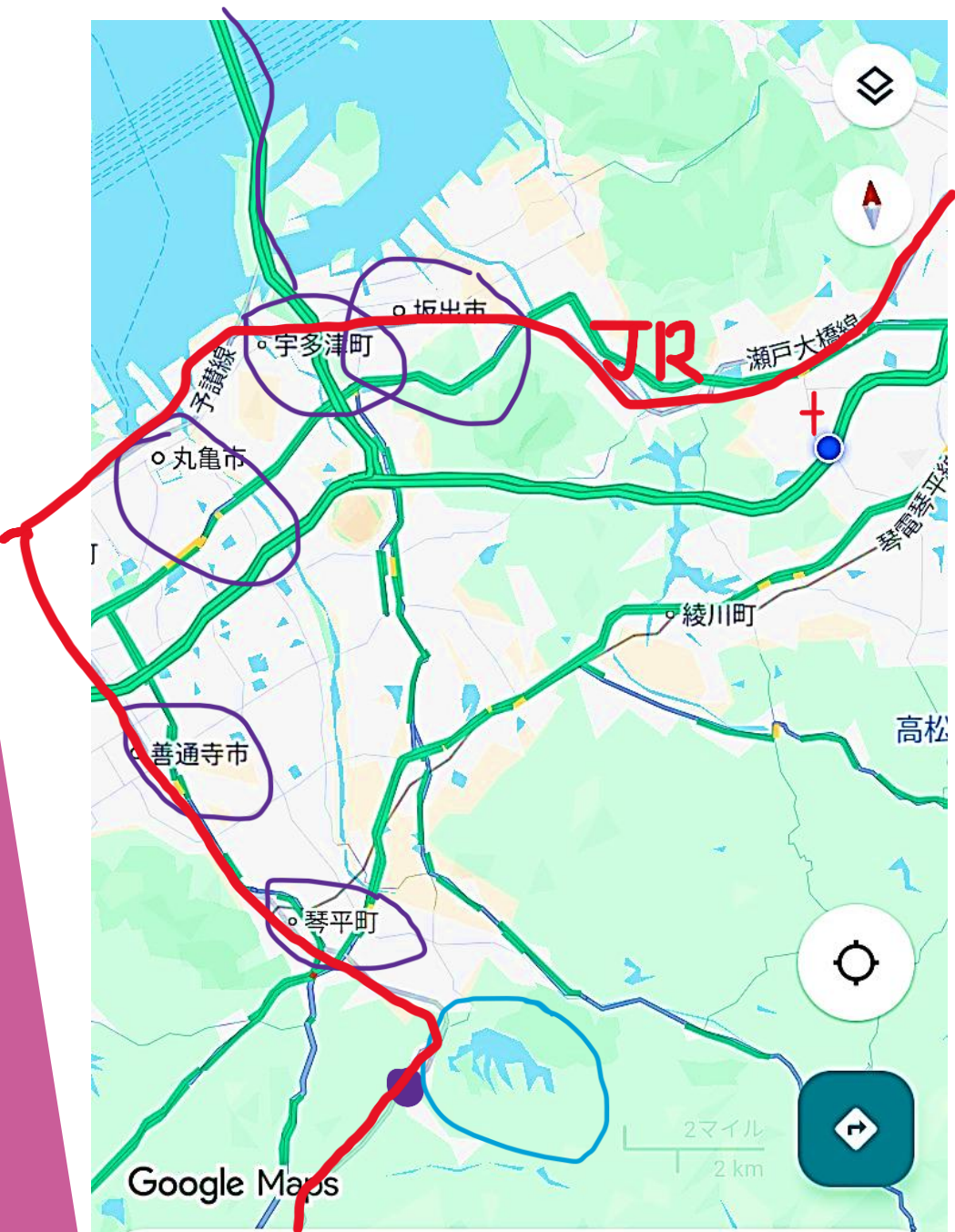
ヘブル11:13 後半「・・・約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では**旅人**であり、**寄留者**であることを告白していました。」

第一ペテロ2:11 「愛する者たち、私は勧めます。あなたがたは**旅人**、**寄留者**なのですから、たましいに戦いを挑む肉の欲を避けなさい。」

旅について

19歳の夏
(1991年)
電車で四国へ
の旅を
JR土讃線
「塩入駅」





塩入駅のホームと待合室？



ま と め

- ・人生のはかなさを告白した後で、ダビデは自分の人生の望みは、ただ、主にのみにあるということを告白した。
- ・旅人、寄留者であるゆえに、天の故郷を思いつつ、不平やつぶやきの生活ではなく、ほがらかな心で送る生活を願った祈りで閉じている。私たちの祈りとして

今週のみことは

「主よ 私の祈りを聞いてください。
助けを求める叫びに 耳を傾けてく
ださい。私の涙に 黙っていないで
ください。私は あなたとともに
いる旅人 すべての先祖のように
寄留の者なのです。」

詩篇39篇12節